

全共斗会議から6月25日に国文開催の要請がありましたが、このことについて大学から次のような回答がありましたので、全共斗会議の要請文と大学の回答文をお知らせします。

要 請 文

6月21日の全学共闘会議結成をもって、中教審答申＝大学立法粉砕、明大闘争勝利(6項目貫徹)の無期限バリケードストライキに突入した。我々は中教審答申＝大学立法粉砕の徹底した批判と闘いを行って来た。また今後更に推進していくと同時に、我々は中教審答申＝大学立法の根本的批判は、現実の明大に於ける諸問題(6項目など)＝大学内部の実体化を批判することを通じて(6項目などの貫徹)のみ批判する前提が、実質的な批判の内容が可能であると考へます。それ故左記の要項で大学改変を行ないたく考へますので回答をお願い致します。

記

- 1 日時 6月25日 午後1時～4時30分
 - 1 場所 記念館
 - 1 議題 大学立法、学内諸問題、その他
- 尚、当日午後5時より、文部省へ向けた大衆的デモを行ないますので、教職員の主体的参加を要請致します。

以上

明治大学全学共闘会議

代表 横谷 優一

明治大学法人理事会

総長 殿
学長 殿

昭和44年6月23日

回 答 文

「明治大学全学共闘会議代表」名で要請のあった来る6月25日の話し合いについて、下記通りの理由で、適当な日時に延期することを要請します。

- 理由 (1) 要請文ののべている話し合いのデモには、従来の話し合いとさらに進展する方向を見出し得ず、現時点では更なる話し合いが行なわれるとは考えられない。
- (2) 全学封鎖という事態の発生について、大学としての見解を明らかにするためには、連合教授会などの後援決定を経なければならぬ。そのためには、なお時間を要するので、6月25日の日程では充てることができない。
- (3) 従来大学当局は学生会ならびに学苑会・中教審など、全学生を代表する組織と話し合いを続けて来たが、今回申し入りのあつた全学共闘会議との話し合いについては、連合教授会などの了解を必要とする。

なお要請のあつたデモ行進への教職員の参加については、大学および大学院封鎖のような対立関係を作りながら共同行動を呼びかけることと行為には、深い疑問を抱くものである。大学としては従来からの姿勢に古とついで、現在大学および教職員より団体(専任教授連合会、職員会、教職員組合)による主体的な統一行動を準備中である。

昭和44年6月24日

明治大学総長 春日井 薫

学生会中央執行委員会

委員長代行 長 善一 殿